

# 壺井栄賞

## ぼくとのぶ

### 土庄町立土庄小学校五年 平林 裕陽

ぼくは、小学五年生です。そして双子です。ぼくは、兄より二分だけおそく生まれて弟になりました。

兄は脳性まひで、自力で立つ事ができません。だから基本車いすで生活しています。家の中ではハイハイで、外ではPCウォーカーという歩行器で移動しています。トイレやお風呂は、両親や先生のかい助が必要です。

でも、みんなが思っているより、兄はたくさん動けるし、手足が動きにくいところ以外は、みんなとほとんどいっしょです。いつも一番近くにいますから、ぼくは兄のことをよく知っていますけれど、ぼくたちがおもちやの取り合いばかりしていることは、みんなはあまり知りません。兄だけれど、たった

二分ちがいのせいとか、兄なのだからとゆずってはくれません。

耳もよく聞こえます。小さい虫の声にも気付くし、車が近づいてきた時にも早く気付いて安全です。内しよでゲームをしている時にはお母さんが帰ってきた音をいち早く察知してさつとかくすことができます。ゲームをかくされている時には全身の筋力を使ってまるで障害がないかのように、苦手な早起きをしてまで探しまくっています。時々信じられないくらいに動きをします。こんな感じで、得意なことをうまく生かして生活しています。

ぼくは、兄のリハビリに付いて行っただけです。病院では、こしや足などのマッサージや、ついで歩く練習

習をしたり、手先の細かな動きの練習などをしてもらっています。足を動かす練習が一番大変そうです。兄がそのリハビリをしているときに、ぼくが兄の車いすに乗ってみました。最初は楽しかったけれど、むし暑いし、次第にうでがつかれてきました。兄がこんな状況でいつも車いすを動かしているとは思っていませんでした。車いすは楽しいなあ、兄は楽しく過ごしているんだと思っていました。ぼくは、兄のことをあまり分かっていなかったんだと思いました。

それから、ほぼ毎日車いすかPCウォーカーでこいだり、歩いたりするのは、とてもつかれると思うようになりました。さらに、炎天下での移動や長時間こぎ続けるのはとてもしんどいはずでした。

いつも一しよにいることで困ることも知りませんでした。駅の券売機や改札などでは、車いすマークが付いていないものがあって困ります。船や電車に乗る

時も、いつもエレベーターを探していません。

ある日、急な坂の下にある家に行きました。その道が細かったり、道がごつごつしたりしていて進むのが大変でした。前にプールに行った時も、かかえて行かなければいけない所があったので、とても大変だったと言っていました。だから、お母さんは出かける時にいつも事前にどこに何があるかを確かめています。足が動きにくいと、こんな少しのことが大変なんだと改めて強く思いました。

昨年の十二月には、兄にとつてとてもうれしいことがありました。マラソン大会です。五年生のみんながとても近くで応援してくれました。それを見て、兄のがんばりがみんなに伝わってよかったです。

ぼくたちはお笑いが好きです。兄よりぼくの方がとても好きです。よくネタ合わせをして、まんざいごっこをして遊んでいます。兄がつっこみでぼくがボケ担当です。ちなみにコンビ名は、「ロケットパワー」。強そうだからのり

で決めました。四年生の最後のお楽しみ会では、大トリでお笑いライブをやりました。自分たちの作ったまんざいをひろうしました。先生は、

「それぞれのよさが出てて面白かったよ。さすが双子だねえ。」

と言ってほめてくれました。はく手かっさいでした。障害をもつていても、自分でネタを考えて周りの人を笑わせることができます。その後は、二人で「いのちの歌」を歌いました。ぼくたちが通っている合唱団で習った歌です。四年生のしめくりにぴったりの曲だと思えました。心をこめて歌ったので、みんなが真剣に聞いてくれてとてもうれしかったです。ぼくが歌いたいと先に提案すると、

「いいんじゃない。」

と、兄も賛成してくれました。

友だちには、よく「お兄ちゃんのこと好き？」とか「仲はいいの？」とか聞かれます。兄が車いす生活だから、それを気づかっている優しい弟だと思われがちですが、実際は他の兄弟と何も変わりません。ぼくにとっては当た

り前のことなので、朝起きて兄の足が動くようになっていたとしても、今と全く変わらないです。

「動かない」が「かわいそう」ではなく、一つの特徴としてとらえていけばいいと思います。これからも兄と協力しながら、いいところを生かして周りを笑顔にしたいです。